

国際理解へ児童交流 日向・財光寺小

セネガルとビデオレター



児童にセネガルの生活や文化について説明する増田さん（右奥）

増田さん（青年海外
協力隊員）**橋渡し**

日向市・財光寺小（三樹和幸校長、437人）の5年生75人は今月から、セネガルの児童と1年間にわたってビデオレターを交換する取り組みを始める。同国に派遣されている同市出身の青年海外協力隊員増田竜也さん（28）に、同

校が協力を呼び掛け実現。児童が外国の生活や文化を理解し、国際的な感覚を身に付けることを狙う。

交換先は同国北西部のリンケール県にあるホルホル村の小学校。1、2カ月に1回、9月中旬には増田さんが一時帰国し、5年生の授業で講

話。同国には数種類の言語や民族があり「国民性は明るくて陽気。ダンスや情熱的な歌が好きな人が多い」などと紹介した。黒木洸志君（11）は「セネガルのことをもっと詳しく知って仲良くなりたい」と話していた。

財光寺小はビデオレターの特命係を編成して今月中にも第1弾を撮影し、来年度の1学期末までに6回程度交換する計画。増田さんが来任期を終えた後、8月に再び来校し、1年間の交流活動のまとめを行う。三樹校長は「児童が主体的に校内取材や番組構成、発信に取り組み、さまざまな能力を高めてほしい」と話している。

（小谷実）

「僕には、私にはセネガルに友がいる」プロジェクト ～Am nanu ay warit y dukk senagal～

日向市立財光寺小学校 第5学年

1 目的

- ① 2カ年を見通した学年プロジェクトの立ち上げを通して、学年の合意形成や係の組織編成、スケジュール管理、記録管理、発信等、本校の目指す基礎的汎用的能力を育成する。
- ② 自分たちとは異質なものを文化やアイデンティティとして、受け入れることのできる人権・同和教育上の客観的な知見を得るとともに、グローバル資質の素地を養う。
- ③ 紹介する姿をあるべき姿として、目標設定することにより、日常の学校生活を向上させる主体性を養う。

2 参加者

- ① 財光寺小学校5年生 75名
- ② Abdou Ais 校長 Ayib Sylla 先生(syllayib@gmail.com)
セネガル kholkhol（ホルホル）村：ルーガ州リンケール県リンケール市の北東16km

3 交流方法（案）

- インターネット上のビデオレター形式
google drive を共有化し、互いに観ることができるようにする。
課題：継続性を考えると学校として gmail account か Face book 登録をする必要がある。

4 交流内容

両方の学校で共通テーマと独自テーマで交流する。

- ① 共通テーマ～共通テーマから、比較学習を通して、文化の比較を行い、自他理解を深める。
（例）家族の自慢 自分にとって一番大切なもの 将来の夢
- ② 独自テーマ～独自のテーマから、その国ならではの文化を知り、自他理解を深める。
（例）学校の特色 財光寺小側：無言清掃 学習の様子 ラジオ体操 算数の問題 ICT 習字など

5 プロジェクトイメージ

月	実施内容	準備
平成27年9月	セネガル派遣の増田竜也氏来校 ○自己紹介 ○セネガルの紹介 ○派遣を通して感じていること ○質問タイム	総合的な学習の時間 ・増田氏講話聴講 ・交流内容の検討 セネガルとつながるために セネガルに伝えるために
平成27年10月～	ビデオレターの交換 （1～2ヶ月に1回程度）	ビデオレター撮影時など、必要に応じて総合的な学習を利用する。
平成28年8月	増田竜也氏再来校 交流から広がった学びと可能性について～現場レポートを交えて～	総合的な学習の時間 ・増田氏講話聴講
平成28年9月	交流の全体をセネガル大使館にプレゼンの形で紹介 在日 or 在セネガル（児童作）	総合的な学習の時間

6 ビデオレター作成の詳細

(1) 共通ルール

- ① 学校本来の活動に支障が出ないように、作成ビデオは1回5分以内
- ② 互いのデータをデジタルで他に流用はしない
- ③ 必須ビデオを年2回設定（クリスマスビデオ 終了 or 進級ビデオ）

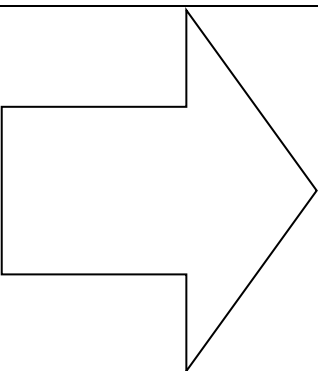
(2) 特命係として発足

- 学級内にセネガル委員会を組織する。

係（案）	内容
プロデュース	番組構成
校内取材	必要事項を取材する。
データ管理	デジタル機器で
情報集約	アンケート集約
翻訳	日本語から簡単な英語 or フランス語へ 日本語も可？

※ ビデオの内容によって、係分担は変更がある。

(3) 基礎的汎用的能力の育成

系の組織編成	人間関係形成能力 社会形成能力		つながる力
番組構成	課題対応能力 自己理解		分かる力 創る力
スケジュール管理 データ管理	自己管理能力		分かる力 やりぬく力
発信	自己理解		つながる力
依頼	人間関係形成能力		やりぬく力
情報集約 取材・翻訳	課題対応能力		分かる力 創る力

7 その他

- ① 活動の様子をメディアに広報する
- ② 来季の夏休みの自由研究など、自ら進める研究にしていく。
- ③ 3月の時点で担任が替わっても、児童が自分たちで進められるようなルーティンを確立しておく。
- ④ 担当の先生とメール交換を早期に済ませておく。（簡単な英語）

8 平成27年9月の実践（2時間実施）

① 今回の実践の目標

増田さんとの出会いを通し、セネガルに興味をもつとともに、これからつながりを持ち、交流するために自分たちのできることややりたいことを話合うことができる。（キャリア教育；創る力）

② 第1時学習指導過程

段階	学習活動 主な発問と予想される反応	指導上の留意点		評価【評価方法】	資料 準備
		指導者	外部人材		
導入 5分	1 本時の学習内容を知る。 2 本時のめあてをつかむ。 増田さんのことやセネガルのことについて知ろう。	○ 外部人材の紹介をする。	○ 簡単に自己紹介をしてもらう。		ワークシート
展開 35分	3 増田さんについて知る。 ○ 小学生の頃 ○ 市役所を辞めて、青年海外協力隊を希望した時 4 感想を発表する。 5 セネガルのお話を聞く。 6 セネガルのことについて質問する。	○ 児童に増田さんの生き方や価値観にふれさせる。 ○ 生き方や価値観にふれ、感じたことを発表させる。 ○ お話を聞いて、不思議に思ったことやもう少し詳しく知りたいことなど、積極的に発表させる。	○ 小学生時代のことや海外に興味をもった大学時代について話してもらう。 ○ 仕事をやる決断をしたときの葛藤をしてもらう。 ○ 写真や動画、現物を使って一般的な情報を説明してもらう。	  	地図 写真
終末 5分	7 交流内容を話合う。	○ これからの見通しと交流方法を教え、知りたいこと、伝えたいことを、考えさせる。	○ 机間巡視をしてもらい、おもしろい発想を見つけてもらう。	☆ 自分たちのできることややりたいことを考えることができる。 （創る力） 【観察】 【ワークシート】	

③ 第2時学習指導過程

段階	学習活動 主な発問と予想される反応	指導上の留意点		評価【評価方法】	資料 準備
		指導者	外部人材		
導入 5分	1 本時のめあてをつかむ。 増田さんのお話を聞き、これからできることを話合おう。				地図
展開 前段 17分	2 増田さんのお話を聞く。 ○ セネガルの紹介 ○ 人・ことについて、感じていること ○ セネガルに行って学んだこと 3 増田さんに質問する。 4 増田さんのお話を聞く。 ○ 今回の取り組みに関する思い ・ 自分が橋渡しとなつて、海外のことを知ってほしい。	○ 不思議に思ったことやもう少し詳しく知りたいことなど、積極的に発表させる。	○ 増田さんが感じた日本とセネガルの共通点や相違点や、海外経験をして学んだことを話してもらう。 ☆ 今回の取り組みがどれほど価値があるか、話してもらう。	 	
展開 後段 18分	5 交流内容を話合う。 	○ これからの見通しと交流方法を教え、知りたいこと、伝えたいことを、話合わせる。 ○ 発表で出た子どもたちの考えをまとめる。	○ 机間巡視をしながら、子どもたちの質問に答えたり、おもしろい発想を見つけてもらったりする。	☆ 自分たちのできることややりたいことを話合えること。 (創る力) 【観察】 【発言】 【ワークシート】	
終末 5分	6 本時の学習を振り返る。 	○ 今日の学習の感想を発表させる。	○ 児童の感想を聞いて感じたことを話してもらう。		

④ 児童の感想

青年海外協力隊（セネガル）増田さんのお話を聞いた感想

5年

増田さんの説明や思いを聞いて、思ったこと、感じたことやこれからがんばりたいことをくわしく書こう。



ぼくは、増田さんが仕事をやめてまで、セネガルに行かれたことがすごいなと思いました。自分だけ、仕事についていたと思います。セネガルでは、えんぴつではなく、青ペンをつかったり、ご飯の時は、ではなく、手を洗って食べるなど、日本とはちがうところがたくさんあり、国によって文化がちがうんだと思いました。また、マンゴーの安さや、気温の高いことにびっくりしました。これから、ビデオレターで、日本の文化などいろいろなことをセネガルに教えられたらいいなと思います。そのために、クラスで一つになってがんばりたいと思います。

青年海外協力隊（セネガル）増田さんのお話を聞いた感想

5年

増田さんの説明や思いを聞いて、思ったこと、感じたことやこれからがんばりたいことをくわしく書こう。



昨日は、遠いセネガルから、話を聞かせてもらってありがとうございました。初めはセネガルと言う国があることを知りませんでした。でも、ますださんの話や写真を見て、なんとなくセネガルに近づいた感じがしました。その中でも一番印象に残ったのは、食べるご飯が決まっていて、それをみんなと右手で食べることです。わたしたちは、いつもご飯はちがうし、手じゃなくはして食べるからです。でも日本でもおすしやえんぴつは手で食べるのでそこがにているなあと思いました。そして日本とは遠くて考え方がちがう別の国に勇気をだしていったますださんもすごいなあと思いました。わたしも、とセネガルの言語と国のことを知りたいと思いました。

青年海外協力隊（セネガル）増田さんのお話を聞いた感想

5年

増田さんの説明や思いを聞いて、思ったこと、感じたことやこれからがんばりたいことをくわしく書こう。



私は、増田さんのお話を聞いて、思ったことや感じたことがたくさんあります。もちろんセネガルの文化や子どもたちのこともよく分かったし、国のことも増田さんのこともよく分かりました。でも、私が一番に残ったのは、増田さんがセネガルへいこうと決意した時の話です。増田さんは、のべおかの市役所で働いていて、それはそれで楽しく、しゅうまつの日々を送っていたそうです。しかし、自分の夢、外国に行きたい、自分が力になりたい。その思いをしっかりと決めて、仕事をやめるというすごい問題に立ち止まっても、まわりには、家族に反対されてもなお、夢をつらぬいた増田さんの力はとても強く、まっすぐななと思いました。私は、自分に弱くて、ビビっ！とすることができません。でも増田さんのように、自分に強く、正直になれたらいいなと思います。わざわざ私たちのために、時間をかけて来てくれてありがとうございました。これからもセネガル"気合"を入れてがんばって下さい。

青年海外協力隊（セネガル）増田さんのお話を聞いた感想

5年

増田さんの説明や思いを聞いて、思ったこと、感じたことやこれからがんばりたいことをくわしく書こう。



わたしは、増田さんを見てすごいなと思いました。一つ目は、増田さんは、セネガルへ行くのか、行かないのか、一年以上悩んだそうです。わたしは、たぶん行かないと思います。なぜなら、知らない人と、セネガルの言語で、お話をしたりするのは、たえられないと思うからです。それでも増田さんは、ちゃんと行きたい気持ちがあり、セネガルの人々と今、お話をしたり聞いたりしています。それはすごいなと思います。二つ目は、わたしは、増田さん自身、すごいなと思います。なぜなら、セネガルのこと、セネガルの人々のお話をしているとき、一番目がキラキラしているからです。質問をしたりすると、よく聞いてくれたね、などと言葉からも、キラキラしていて、増田さんを見てると、すごくうれしくなります。わたしも、発表がにがてあまりしたことないけれど、増田さんを見て、勇気をもって、発表してみよう！そう思いました。増田さん、今日は、きてくれて、本当に、ありがとうございました。

⑤ 保護者の感想

切り取り線

☆今回の参観授業（セネガルプロジェクト）についてご感想をいただけたらありがたいです。

子供たちの瞳がキラキラ輝いているように感じました。増田さんが海外にて働いてこの素晴しと大きな変化を本当に実感できているのには、また先の世代のしあわせが、将来において今回の授業は心に残っているに違いないと思えました。

授業の進め方も分かりやすく、また興味を持って参観する機会となりました。

切り取り線

☆今回の参観授業（セネガルプロジェクト）についてご感想をいただけたらありがたいです。

これは企画、はめたにはいいけど、このことに興味ある生徒達には
 とも牽けておわい、年々より長いスパンで手がせられて、心に残るでしや！
 テレビをみるだけで、/おもしろいことを、気づかせて、聞いて、そして
 来はセネガルのことをあるか、初めて知り、勉強になりました。

切り取り線

☆今回の参観授業(セネガルプロジェクト)についてご感想をいただけたらありがたいです。

子供達には良い経験がひとつになると思っています。
多くの事に興味を持ち、行ってくれるといいなと思います。

切り取り線

☆今回の参観授業（セネガルプロジェクト）についてご感想をいただけたらありがたいです。

多岐達のいい経験に於いていいと思いきや、
もっともっといろいろ仕事に興味を有ってほしいです。

72. 244. 11. 11. 11.

☆今回の参観授業（セネガルプロジェクト）についてご感想をいただけたらありがたいです。

異国の文化や価値感を知ることで子供達が将来
世界で活躍する大人になって欲しいと思いました。

⑥ 授業者の気づきや学び

子どもたちは増田さんとの出会いの中で、葛藤の中でセネガルに行くことを決め、現地での経験からたくさんを学んでいる増田さんの姿にあこがれをもち、これから一緒にプロジェクトを進めていくことへのやる気につながることができた。今回の短い交流の中でも大きな収穫があった、これからの交流も子どもたちの主体性を上手く引き出しながら、充実したものにしていきたい。